

鴨川市人口ビジョン（素案）

1 人口の現状分析

(1) 人口動向分析

- ① 総人口
 - ・2010（平成22）年 35,766人 → 2040（平成52）年 26,649人
 - ・今後30年で9,117人、25.5%減少。 ※年齢不詳を含む。
- ② 年齢3区分別人口
 - ・年少人口は1,336人、34.0%減少。
 - ・生産年齢人口は6,636人、32.8%減少。
 - ・老年人口は1,096人、9.5%減少。
- ③ 自然増減（出生・死亡）、社会増減（転入・転出）の状況
 - ・死亡数が出生数を上回る自然減が長期間継続。
 - ・年によっては転入超過（社会増）もあるものの、全体としては転出超過（社会減）の状況。
 - ・1990（平成2）年から2014（平成26）年までの25年間のうち人口増加が見られたのは3か年のみ。
- ④ 性別・年齢階級別の人口移動の状況
 - ・男性は10～20代の転出が多い。20代後半から転入超過傾向となり、50～60代が顕著。
 - ・女性は近年、10～20代は転入超過であるものの、20代後半から30代前半の転出が多い。30代後半以降は転入超過傾向。

(2) 将来人口の推計と分析（2040（平成52）年）

○パターン1 社会保障人口問題研究所準拠	26,645人
→人口移動が収束する場合	
・シミュレーション1	28,652人
→合計特殊出生率が2030（平成42）年に2.1まで上昇した場合	
・シミュレーション2	27,306人
→上記に加え、転入転出がゼロとなった場合	
○パターン2 日本創成会議準拠	26,766人
→人口移動が収束しない場合	

(3) 人口の変化が地域の将来に与える影響の考察・分析

- ① 産業構造への影響
- ② 公共施設の維持管理・更新等への影響
- ③ 社会保障の財政需要、税収等の減による市財政への影響
- ④ その他

2 人口の将来展望

- 【展望イメージ】（仮置き）
- 合計特殊出生率：1.44（2008－2012年の数値）から2020年1.50→2030年2.10→2040年2.10を達成→28,652人（シミュレーション1）
 - 移住・定住：約2,000人増
 - 総人口：2040（平成52）年には少なくとも3万人程度の人口を維持

鴨川市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2015～2019年度の5か年）（骨子案）

1 基本認識

鴨川市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、鴨川市人口ビジョンにおける人口の将来推計及び人口減少に伴い生ずる事象、影響等の分析を広く市民の間で共通認識とし、また、目指すべき将来の方向を前提として、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立するとともに、その好循環を支える「まち」の活力を創造することを基本認識とします。そのため、総合計画と連動して中長期的な視点からの取り組みを進めるとともに、地域の特色や地域資源を強みとして生かした幅広い施策を盛り込み、重点的に実施を図ります。

[目指すべき将来の方向]

- ・移住・定住の促進
- ・若い世代の結婚・子育て等に関する希望の実現
- ・時代にあった地域づくりの推進

2 基本目標

(1) しごとづくり …鴨川市での安定した雇用を創出する

数値目標：

(2) ひとの流れ …鴨川市への大きな人の流れを創る

数値目標：

(3) 結婚・出産・子育て …若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

数値目標：

(4) まちづくり …活力のある地域をつくとともに、安心な暮らしを守る

数値目標：

4 具体的な施策と客観的な指標

5 客観的な効果検証の実施に関する事項

3 講ずべき施策に関する基本的な方向

- 観光及び医療福祉を基軸とした“しごと”づくりと、充実した労働環境の創出
- 農商工連携等による農林水産業の振興と後継者の確保
- 産業競争力を高めるための交通アクセスの整備
- 富の集積と域内循環のための戦略的な施策の展開
- 新たなひとの流れから生み出される新たな産業の育成、誘致

- UJIターンの促進
- 大学等教育機関及び地元企業等との連携による地域を支える人材の育成・確保、地元定着の促進
- 元気な高齢者の移住促進（日本版CCRC※構想の検討）
- 産学民官が一体となった戦略的・国際的な観光交流の促進
- 新たな観光交流の創出（スポーツツーリズム、医療ツーリズム、前原・横渚海岸を中心とした海浜エリアの再整備の検討）

- 婚活、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援
- 子ども・子育て支援環境の充実
- 子育てに係る経済的負担の軽減
- 特色ある教育の推進
- 郷土への誇りと愛着の醸成

- ◆ 安心して暮らせる地域コミュニティの維持・再生
- ◆ 東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地誘致などを契機とした、高齢者や障害者にやさしいまちづくり
- ◆ ライフステージに応じた健康づくりの促進
- ◆ 高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができる環境づくり（地域包括ケアの充実）
- ◆ ファシリティマネジメントの強化

※「日本版CCRC」＝都会の高齢者が地方に移り住み、健康状態に応じた継続的なケア環境の下で、自立した社会生活を送ることができるような地域共同体（Continuing Care Retirement Community）

(参考) 国・県の基本目標と施策に関する基本的方向について

国が示す基本目標

地方における安定した雇用を創出する

- ◆若者雇用創出数（地方）
2020 年までの5年間で30 万人
- ◆若い世代の正規雇用労働者等の割合
2020 年までに全ての世代と同水準
(15~34 歳の割合：92.2% (2013 年)
(全ての世代の割合：93.4% (2013 年))
- ◆女性の就業率 2020 年までに73%
(2013 年 70.8%)

地方への新しいひとの流れをつくる

- ◆地方・東京圏の転出入均衡(2020 年)
- ・地方→東京圏転入 6万人減
- ・東京圏→地方転出 4万人増

若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- ◆安心して結婚・妊娠・出産・子育てできる社会を達成していると考える人の割合
40%以上 (2013 年度19.4%)
- ◆第1子出産前後の女性継続就業率
55% (2010 年38%)
- ◆結婚希望実績指標 80% (2010 年68%)
- ◆夫婦子ども数予定 (2.12) 実績指標
95% (2010年93%)

時代に合った地域をつくり、
安心な暮らしを守るとともに、
地域と地域を連携する

- ◆地域連携数など
- ※目標数値は地方版総合戦略を踏まえ設定

千葉県の総合戦略(骨子案)

“働きたい”がかなう千葉づくり

- 地域の特性に応じた戦略的な企業誘致の推進
- 力強い農林水産業の確立
- 未来を支える新産業等の振興
- 京葉臨海コンビナートの競争力強化
- 中小企業の活性化支援
- 地域の創意工夫による経済活性化の取組の促進
- 主要都市間の交通アクセス整備

“人々が集う”魅力あふれる千葉づくり

- 国際社会の中で発展するCHIBAづくり
- 居住地として選ばれる千葉づくり
- 国内外の誰もが訪れたい観光地づくり
- 大学等との連携による地域への若者の定着促進
- 千葉の様々な魅力の国内外への発信

“結婚・出産・子育ての希望”がかなう千葉づくり

- 若い世代の経済基盤の確保と子育てに係る経済的負担の軽減
- 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援
- 働きながら生み育てやすい環境づくり
- 千葉に愛着を持ち、地域や世界で活躍できる子どもの育成

“安全・安心な暮らし”がかなう千葉づくり

- ◆生涯を通じて健康で生き生きと暮らせる地域づくり
- ◆地域コミュニティの再生と担い手づくり
- ◆快適で暮らしやすいまちづくり
- ◆安全に暮らせる地域づくり
- ◆地域連携の強化

東京オリンピック・パラリンピックを契機とした
「世界中から人々がやってくるCHIBA」づくり

- ◆キャンプ・国際大会・MICEの誘致
- ◆成田空港の利便性向上、交通ネットワーク・アクセスの強化
- ◆バリアフリー化の促進
- ◆外国人受入体制の整備
- ◆魅力的な観光地づくり
- ◆国際交流の促進
- ◆戦略的な千葉の魅力発信

鴨川市の基本目標、施策に関する基本的方向【骨子案】

しごとづくり … 鴨川市での安定した雇用を創出する

- 観光及び医療福祉を基軸とした“しごと”づくりと、充実した労働環境の創出
- 農商工連携等による農林水産業の振興と後継者の確保
- 産業競争力を高めるための交通アクセスの整備
- 富の集積と域内循環のための戦略的な施策の展開
- 新たなひとの流れから生み出される新たな産業の育成、誘致

ひとの流れ … 鴨川市への大きなひとの流れをつくる

- UJIターンの促進
- 大学等教育機関及び地元企業等との連携による地域を支える人材の育成・確保、地元定着の促進
- 元気な高齢者の移住促進（日本版CCRC構想の検討）
- 産学民官が一体となった戦略的・国際的な観光交流の促進
- 新たな観光交流の創出（スポーツツーリズム、医療ツーリズム、前原・横渚海岸を中心とした海浜エリアの再整備の検討）

結婚・出産・子育て … 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- 婚活、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援
- 子ども・子育て支援環境の充実
- 子育てに係る経済的負担の軽減
- 特色ある教育の推進
- 郷土への誇りと愛着の醸成

まちづくり … 活力ある地域をつくとともに、安心な暮らしを守る

- ◆安心して暮らせる地域コミュニティの維持・再生
- ◆東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地誘致などを契機とした、高齢者や障害者にやさしいまちづくり
- ◆ライフステージに応じた健康づくりの促進
- ◆高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができる環境づくり（地域包括ケアの充実）
- ◆ファシリティマネジメントの強化